



2025年2月7日

配信先：京都大学記者クラブ、大阪科学・大学記者クラブ、  
文部科学省記者クラブ、科学記者会、環境省記者クラブ、  
環境記者会、農政クラブ、農林記者会

## 総合地球環境学研究所 メディア懇談会開催のお知らせ

平素より、総合地球環境学研究所(地球研)の研究活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

このたび地球研では、報道関係者の皆さまを対象に、最新の研究活動をご紹介するメディア懇談会を2024年度に2回開催することといたしました。第2回目となる今回は、現地参加とオンライン参加のハイブリッド形式で実施いたします。現地でご参加の方には、会の終了後、発表に関連するコンポスト実験の様子をご覧いただける機会を設けております。また、所長や発表者、研究者らとの懇談の時間もございますので、ぜひご参加ください。

皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

記

### 2024年度第2回 地球研メディア懇談会

日時：2025年2月20日(木)15:00~17:00(オンラインは16:00まで)

実施方法：総合地球環境学研究所(京都市北区上賀茂本山457-4) 講演室 および オンライン  
※ご来場は公共交通機関をご利用ください。

申込方法：【地球研講演室で参加】

所属、お名前をメールにてお知らせください。地球研広報室 kikaku@chikyu.ac.jp

【オンライン(zoom)で参加】

下記URL(右のQRコード)よりご登録ください。

[https://us02web.zoom.us/meeting/register/YAE\\_bQ0iRk6T-nzsW3CUtw](https://us02web.zoom.us/meeting/register/YAE_bQ0iRk6T-nzsW3CUtw)

※要事前申込。当日申込も可。



### 【プログラム】

15:00 開会・あいさつ(地球研の主なトピックス紹介) 山極 壽一 所長

15:10 大山 修一 プロジェクトリーダー(有機物循環プロジェクト)より話題提供  
『生ごみの処理をどうしていきますか。』

15:35 質疑応答

15:40 林 健太郎 プロジェクトリーダー(Sustai-N-able プロジェクト)より話題提供  
『「窒素管理」がやってきました』

15:55 質疑応答 ※オンライン配信はここまで

16:00 歓談 ※有機物循環プロジェクトの調査地に関連したコーヒーとお菓子をご用意しています。

16:30 地球研コンポスト見学

17:00 終了



## 【発表概要】

### ■ 『生ごみの処理をどうしていきますか。』

ゴミ処理の問題は、世界共通の課題です。日本は一般ごみの9割近くを燃焼する、特異的な国です。日本には土地がないので、燃やしてごみの体積を減らし、埋め立てるものだと教えられてきました。燃やすと、二酸化炭素が出ます。

わたしたちは生ごみを有効活用し、食べ物や生ごみそのものの価値の向上を通じて社会の変革をめざしています。京都では高級ホテルの食品ゴミでコンポストをつくり、それを農家さんが使用し、ホテルに高級食材として買い取られます。アフリカでは生ごみを餌に養豚をし、その糞尿でコンポストをつくり、ザンビアでトウモロコシ、ウガンダでバナナ、ガーナでカカオを有機栽培し、ビジネス化に取り組んでいます。その背後にあるフィロソフィーをお伝えします。

発表終了後には、コンポストの実験の様子をお見せします。



コンポストで栽培されたいちじくのタルト  
(ウエスティン都ホテル京都)

※ **有機物循環プロジェクト**(都市—農村の有機物循環とそのシステム構築に関する実践研究—地域の価値観と科学的知見の融合をめざして—): <https://organic-rihn.chikyu.ac.jp/>



### 大山修一 (おおやま しゅういち) プロフィール

地理学、生態人類学。西アフリカ、ニジェールで都市のごみを使って緑化、平和な社会づくりに取り組む。アフリカのニジェールとザンビア、ウガンダ、ガーナ、ジブチのほか、京都と金沢で活動中。世界を面白くする人として、2月22日に第11回ワールドおもしろいアワードを受賞(予定)(於 グランフロント大阪)。

### ■ 『「窒素管理」がやってきました』

肥料や工業原料などの窒素利用は窒素汚染という脅威を伴います。これを窒素問題と称します。窒素利用の便益を維持しつつ窒素汚染の脅威を緩和する窒素管理が求められます。2019年の第4回国連環境総会の「持続可能な窒素管理決議」を経て、国連環境計画は2020年に窒素作業部会を設置しました。日本も2022年より同部会に参画し、環境省は世界に先駆けて2024年9月27日に「持続可能な窒素管理に関する行動計画」を公表しました。国内外の窒素問題の専門家はこれらの活動を支援しています。今回は窒素管理をめぐる最新動向に加え、窒素問題にインスピレーションを受けたアート連携イベントを紹介いたします。



展示イベント『Sense of the Unseen Vol.1  
怪談と窒素』のメインビジュアル



※ **Sustai-N-able (SusN) プロジェクト**(人・社会・自然をつないでめぐる窒素の持続可能な利用に向けて): <https://www.chikyu.ac.jp/Sustai-N-able/index.html>



**林 健太郎 (はやし けんたろう) プロフィール**

専門は生物地球化学、土壌学、超学際研究。国際窒素イニシアティブ(INI)東アジアセンター代表、栄養塩類の管理に関するグローバル・パートナーシップ(GPNM)運営委員、第10回国際窒素会議(2026年11月)組織委員長など。

**【参加申し込み及び問合せ先】**

総合地球環境学研究所(地球研) 広報室 柴田、松本

Email: [kikaku@chikyu.ac.jp](mailto:kikaku@chikyu.ac.jp) Tel: 075-707-2128、2482